

Monthly Report

D-SCAN

大広・生活者情報総合データベース

深日常のシアワセ、シニアの潤いお酒ライフ

シニア女性も「たしなむ」から「たのしむ」へ
食事に合うスッキリ軽いお酒は家族コミュニケーションの潤滑油
健康志向もキーワード。“プリン体カット”に6割が関心

● 年を重ねるほどに高まるもの、それは“食”への関心。「食に関する意識や関心が高い」というシニアは8割。しかも年代が高いほど関心が高まる。
(D-SCAN28「シニアの食生活」)。食とくれば酒。

● たとえば世帯主65歳以上の家庭のエンゲル係数は30代後半の家庭よりも高く、酒類支出も30代後半家庭の1.14倍。
(大広「シルバーマーケットdata2001」)

● 今どきシニア(50~60代)はどのようにお酒を楽しんでいるのか。これまでのシニアとの違いは?シニアのアルコールライフにインサイト!

アクティブシニアのお酒シーン

「夕食時、家族との会話を楽しみながら」が代表的シーン+楽しみ方いろいろ...

<50代男性>

- 「食事の前にテレビを見ながら一人でビールを飲むのが楽しみ」
- 「タバコを吸うので一人ベランダで思いに耽りながら飲むことが多い」
- 「夫婦で食前に季節に応じてビールやワインを楽しむ。この時間がいい」

<60代男性>

- 「家内と二人の夕食時に一人でゆっくり晩酌を楽しむ」
- 「クラシックを聴きながら一人でレモンハイを。うまい肴があると最高」
- 「一人で飲む専門、パソコンをしながらが多い」

<50代女性>

- 「カラオケでテレビを見ながらビールを飲むのが楽しみ!」
- 「週末に友人や家族と鍋やバーベキュー。ビールが美味しい」
- 「家事を終えてお風呂上がりの梅酒に、心底リラックスします」

<60代女性>

- 「寝る前に娘とテレビを見ながら缶ビールを半分ずつ飲む」
- 「寝る前に愛犬とつまみを食べながら飲む。ぐっすり眠れる」
- 「夫婦ふたりで鍋を囲むときは何だか飲みたい気分」

インターネット調査:2002年12月実施 対象エリア:全国 調査対象者:定期的にお酒を飲む人200名
(50代男性50名、50代女性50名、60代男性50名、60代女性50名)



シニアが好きなお酒・ブランド・飲み方は？

飲む回数と好きな酒

● 皆さん、飲んでます。9割が1週間に1回以上、3割強が毎日

- ・「自宅でお酒を飲む頻度」は、「ほぼ毎日」34%、「2～3日に一回程度」30%、「1週間に1回程度」26%。

お酒をたしなむ50～60代の多くが恒常的にお酒を飲んでおり、6割が週に数回、3割強が毎日お酒を楽しんでいる。(図1)

● よく飲むお酒は、ビール、発泡酒、ワイン

- ・「自宅でお酒の種類(よく飲むもの3つまで回答)」では、「ビール」61%、「発泡酒」43%とビール系が強い。健康イメージの「ワイン」が32%で3位に。
- ・「日本酒」「焼酎」「果実酒」「チューハイ類」「ウイスキー」は、それぞれ15%～25%ほどの愛飲者がいる。缶チューハイは若い層に人気だが、シニアにはまだ浸透していないようだ。(図2)

図1 自宅でお酒を飲む頻度

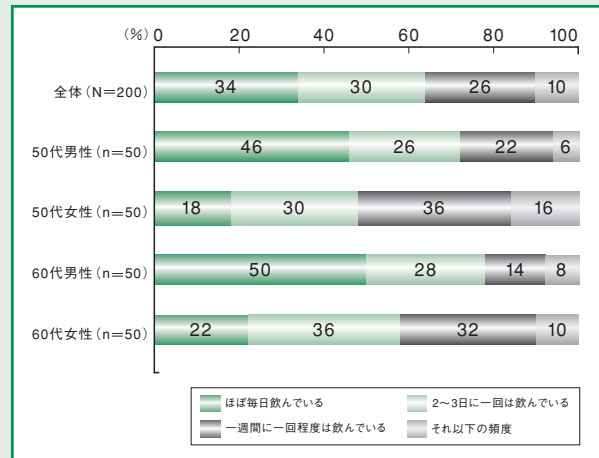


図2 よく飲むお酒の種類

	ビール	発泡酒	ワイン	日本酒	焼酎	果実酒	チューハイ	ウイスキー
全体 (N=200)	61.0	43.0	32.0	26.5	21.0	19.5	18.0	15.5
50代男性 (n=50)	72.0	40.0	24.0	30.0	30.0	8.0	12.0	20.0
50代女性 (n=50)	54.0	44.0	48.0	22.0	10.0	34.0	32.0	8.0
60代男性 (n=50)	60.0	42.0	24.0	40.0	30.0	4.0	8.0	30.0
60代女性 (n=50)	58.0	46.0	32.0	14.0	14.0	32.0	20.0	4.0

お酒シーン

● 男性はテレビを見ながら、女性は風呂上がりや寝酒に

- ・「自宅での飲酒シーン」は、「夕食時に晩酌として」が7割、「家族や友人とくつろぎながら」4割、「風呂上がりに」3割、「寝る前に」25%。具体的な飲み方や飲む場面では、「テレビを見ながら」が多い。
- ・飲むのは「家族で」「夫婦で」が多いが、「一人で」じっくり楽しむ人も男女問わず目立った。50代女性はこれ以外に「友人と」という層も目立つ。
- ・男性に目立つのは「テレビを見ながら」や「パソコンをしながら」。女性は(食事時は忙しいので)「お風呂上がり」が多い。60代女性の特徴は「寝酒」が多く上がっていること。身体的な変化が関係か？



お酒ライフの変化 → 健康なお酒への関心は・・・

変化

● 4人に1人が酒量減。女性は「増えた」人が1割以上

・「5年前と比較して」酒量や酒の種類の変化では、24%が「飲む量が減った」。減ったと言う人は、男性の方が多く、年代別では50代の方が酒量が減ったという意見が多く見られた。「増えた」は1割。増えたという回答は男性より女性の方が多かった。(図3)

● 飲みたいけど・・・気になる健康、体重、体調、飲み代

・減った理由は、「健康上の理由で控えている・・・ダイエット」「加齢の影響で飲めなくなった」が2大理由。男性は「定年で」「不況で」外で飲む機会が減ったせいもある。
 ・増えた理由は、「発泡酒で気軽に飲めるようになった」「ワインを飲むようになり強くなった」女性では低アルコールブームが新規需要を開拓している。また「夫に飲ませ食べさせることに一生懸命→一緒に飲みながら食事作り」「娘が成人し一緒に飲む機会が増えた」等、年を経てのゆとりも見られる。

● ライトへ、低カロリーへ、お酒を切り替えるシニアたち

・「種類の変化」では、＜ビール→発泡酒＞＜ビール→チューハイ＞＜ビール→焼酎＞＜ウイスキー→焼酎＞＜発泡酒→ダイエット系発泡酒＞など、ライトへ、低カロリーへの意見が多く見られた。
 ・ビールは「太る」「成人病になる」など、不健康イメージが多いのが気になる。実際「ダイエット系発泡酒に切り替えて健康診断の数値がよくなった」の声も。

飲み方

● 焼酎、梅酒は「好みの割り方」でスッキリ&ヘルシー！

・「好きな飲み方」は、缶ビール（～発泡酒）、ウイスキーの水割り・お湯割り、日本酒の燗・冷やが一般的。
 ・男性は焼酎を「緑茶割り」「番茶割り」「摺り生姜を入れて夏はウーロン割り、冬はお湯割り」「レモンと氷を入れて水割り」など様々に楽しむ。「ビールは冷凍庫で冷やしたグラスで」「水はミネラル水」「ワインをクリスタルグラスで」等のこだわりも。
 ・女性は「焼酎をウーロン茶割りでレモンを浮かべて」「焼酎にグレープフルーツを搾って水で割る」等、さらに一手間。「梅酒を美味しい水か炭酸で」「梅酒にサイダー」など梅酒もサラリと。「足つきグラスで」「お気に入りのグラスで」とグラスにも凝る傾向が見られる。

健康

● 6割が「プリン体カット」に関心。男性のニーズは切実！？

・「プリン体が少ない発泡酒への興味」では、59%が「興味がある（～やや興味がある）」と高い関心を示した。年代性別による差は少なく、アクティブシニア全体の傾向と言えそうだ。(図4)
 ・「興味を持つ理由」は、男性では「尿酸値なので」「高脂血症なので」「痛風の気がある」と現実的。プリン体という言葉やプリン体と痛風との関係を知っている人も少なくない。
 ・「生活習慣病を予防したい」「年中飲むのだから身体に害がないのがよい」「身体に良いものは積極的に取り入れたい」等、発泡酒が日常化したただに関心は高い。しかし「決め手は味」という声も多い。

● お酒でも健康志向がトレンドに？

・女性では、「主人が痛風」「家族が糖尿病」と家族の健康を考え、「友人が痛風」と健康情報を周囲に伝える女性ならではの敏感さで反応。そして「健康にいいものに興味がある」「健康を意識したアルコールに興味がある」「同じ飲むなら体に良いもの」。健康はお酒においても重要なキーワード。
 ・興味がない人は4割。「要は頻度、量が問題。飲み過ぎなければいい」「酒くらいはいろいろ気にせず味わいたい」という無関心派の他に「よくわからない」という意見が多い。プリン体をカットしていることの有用性をどれだけ訴求できるかが決め手になる。

図3 飲酒量の増減

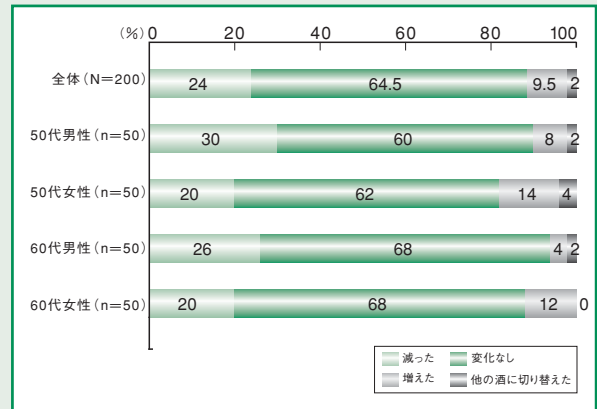
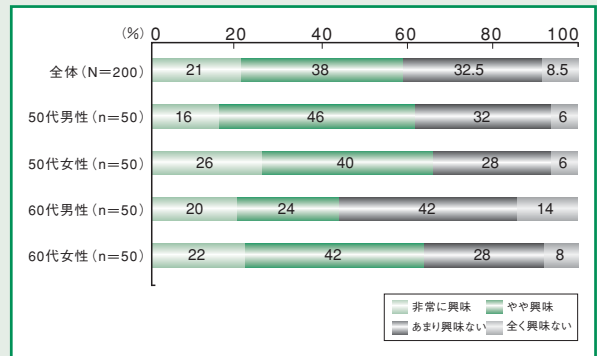


図4 プリン体カット発泡酒への興味





MARKETING VIEW

- **ホームユースのアルコールは、食事に合い、喉を潤す軽いもの**
 - ・毎日飲む人3割、週に1回以上が9割。飲めるシニアは男女問わず、日常的に積極的にアルコールを楽しんでいる。今回はそんな姿が明らかになった。
 - ・男は黙って、ではなくお喋りを愉しみながら、自分流の飲み方で、喉を潤す軽いお酒を楽しむ。男性が書く「妻と二人で飲みます」の行間には” 深日常の幸福 ” が漂う。お酒は家族コミュニケーションの潤滑油。
- **健康から参入してきたシニア女性たち、男性はパソコンしながらも**
 - ・女性の飲酒に暗黙のタブーがあったのは、それほど昔のことではない。しかし今ではシニア主婦のお出かけランチでも、軽く一杯は当たり前。「赤ワインは健康にいい」でワインデビュー、「飲みやすい」で発泡酒デビュー。60代女性もネットでアルコールについて即刻書き込む時代だ。
 - ・一方、今回の調査はインターネットで行ったことも影響しているが「パソコンをやりながら飲む」スタイルが目につく。定年や不況で外で飲む機会が減った男性たち、パソコンは家と外を自在につなぐ。
- **ライト&低カロリー、さらに健康によくて美味しければ最高!**
 - ・価格も下がった。買う場所も増えた。種類も選びきれないほど多くなった。食にお金をかけるこの世代、お酒をもっともっと楽しみたい。しかし、残念ながら身体機能は「量が飲めなくなる」「すぐ酔う」方に。4分の1の人が飲む量が減ったと告白。「種類の変化」では、ライトへ、低カロリーへ。
 - ・もっとコワイのは「成人病」の足音。肥満、糖尿病、高脂血症、痛風。飲む頻度が高いだけに気を使う。気をつけなければ、でも飲みたい、というシニアの悩み。その狭間に低カロリーの「ダイエット系発泡酒」がフィット。赤ワイン、梅酒もフィット。「プリン体カット発泡酒」にも6割が関心。